

2023

輝く県民活躍大賞

受賞活動（団体）の紹介

ジュニア・ユース部門

- 高校生による地域づくりボランティア活動
＜ 大石田町高校生ボランティアサークル 二十四孝 PART II ＞
- 中高生による地域貢献活動
＜ 大江町ボランティアサークル夢懂布 ＞
- 中学生による防犯・交通安全ボランティア活動
＜ 防犯・交通米沢少年隊 ＞

若者部門

- 移住者を中心としたコミュニティによる地域活性化
＜ おぐに移住者コミュニティつむぐ ＞
- 医療機関や福祉施設での花笠踊りの披露及び伝統芸能の発信
＜ 山形県立保健医療大学 花笠サークル 花の会 ＞
- 花笠の演舞による地域文化の振興と演舞普及による
次世代への文化継承
＜ 山形大学花笠サークル 四面楚歌 ＞

一般社会貢献部門

- 大石田まつり「維新祭」による地域活性化
＜ 大石田まつりを10倍楽しくする会 ＞
- 自動車の廃材を活用したバリアフリービーチの構築と創出
＜ 一般社団法人 ドリームやまがた里山プロジェクト ＞
- ゴムボートを活用したダム観光の推進と交流人口の拡大
（絶景・三淵溪谷通り抜け参拝）
＜ 特定非営利活動法人 最上川リバー・ツーリズムネットワーク ＞



… 団体概要 …

代表者

会長 稲垣 美里

所在地

北村山郡大石田町緑町28

主な活動分野

高校生有志による
地域ボランティア

設立年月

昭和56年4月

会員数

17人(全員高校生)
(令和6年2月現在)

高校生による 地域づくりボランティア活動

大石田町高校生ボランティアサークル 二十四孝 PART II



「浴衣 de 花笠」の様子

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

大石田まつりの前夜祭である「維新祭」にて、高校生を中心に100人で踊る「浴衣 de 花笠」の運営をしました。参加者募集のビラ配りから事前の踊りの練習、当日の踊り等企画から、「維新祭」主催団体等と協働で行いました。新型コロナウイルス感染症の影響でそのようなイベントが開催できない期間も、自分たちができることを模索し、青年団体「大石田にぎりばっと部」と協力し、「大石田ガチャ」の製作やイベント参加者を対象とした街歩きガイドを行いました。

その他障がい者自立生活センターと協力し役場前の障がい者用駐車場の塗装を行う等地域貢献活動を行っています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

昭和 56 年に、前組織「大石田町高校生ボランティアサークル二十四孝」を発足させました。その後活動休止期間もあり昭和61年に二十四孝 PART IIと改称し活動を再スタートさせました。

町内に居住する高校生が、高校は違っても、大石田町のためボランティア活動を一緒に行い、高校生相互の交流と町への地域貢献をするため活動を始めました。



Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

地域との交流はもちろんですが、近年では青年団体や他市町のサークルとの交流を大切にしています。ボランティアに対して「楽しい」というイメージを持つ人はあまり多くないと思います。しかし、ボランティアを行う側が少しでも「楽しい」と感じる活動でなければ、続けることは難しいでしょうし、活動の幅も広がらないと思います。高校生が家庭でも、学校でもない場所でボランティア活動をするということは新たな出会いや交流にも繋がっていきます。その「繋がり」や「経験」をこれからの生活にも活かしてもらいたいと思っています。

**Q. 活動の中からどのような
気付きや発見がありましたか。**

高校生だけではやることに限界があっても、大人の力を借りたり、違う団体と協力したりすることで自分たちが思っていた以上のことが出来ることに気がきました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

二十四孝 PARTⅡメンバーは町内に在住していますが、在籍する高校は別々です。そのため、学校ごとの予定があったりするとなかなか全員で集まることができません。しかし、活動日には参加できる人が集まり、チームワーク良く活動しています。元々同じ中学校出身であったことが活かされていると思います。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

発足時から高校生が主体となって活動していますが、近年は中学生や大学生にも参加してもらおうと考えています。そのため、中学生への活動の周知はもちろん、高校を卒業しても関わってもらえるようなネットワークづくりを進めていく予定です。



街歩きガイド



「大石田ガチャ」の制作

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

活動の歴史があるので、メンバーの保護者の方や町内の方も二十四孝 PARTⅡについて知っていただいている人が多いと感じています。そのため活動に対して理解、応援していただけていると思います。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

青年団体や他サークルとの交流や一緒に企画・運営する活動を行いながら、町の良さについても発信していきたいです。

そしてさらにボランティアの輪が広がり、こんな活動もボランティアになるんだ！といことを多くの方に気付いてもらえればと思います。



中高生による地域貢献活動

大江町ボランティアサークル **ほけっと 夢憧布**

… 団体概要 …

代表者

代表 鈴木 星矢

所在地

西村山郡大江町大字本郷
丁373-1

主な活動分野

中高生有志による
地域ボランティア

設立年月

昭和54年4月1日

会員数

32人(全員中高生)
(令和6年2月現在)



イルミネーション作成の様子

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

大江中学校1～3年生の夢憧布メンバーによる「やってみたい」といった自主性から活動の幅を広げています。

今年度は水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会翌日のごみ拾い活動や、イルミネーション作り、子育て支援センターに出向き幼児たちとふれあう活動など、コロナ禍ではできなかった「人と交流する活動」ができました。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何か。

昭和 63 年から、ボランティア活動を通して地域社会との交流を図り、会員同士の心のつながりを深めてもらおうと創設されました。

夢憧布は、「地域を元気に！明るく！盛り上げよう！！」をコンセプトに、夢や憧れがたくさん詰まった魔法のポケットのような活動をするという意味があります。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何か。

特に、自主性を大事にしています。受け身の姿勢でやるのではなく、自分たちから積極的に動くことや楽しくボランティア活動を行う姿勢を心がけています。

また、メンバー同士が楽しく活動できるように、コミュニケーションの取りやすい雰囲気づくりを大切にしています。



**Q. 活動の中からどのような
気づきや発見がありました
か。**

活動していく中で地域の方々を中心に他のボランティアサークルや小さい子どもと関わり、ボランティアにも多種多様な形・考え方があることに気づきました。

今年、幼児とふれあうボランティアを行った際に、今の遊び方と昔の遊び方の違いを体験しました。

例えば、自分たちは外で遊ぶことが多かったですが、室内で遊ぶ子が多くなったなど、遊び方の一例をとっても、時代の変化とともにボランティアの在り方の変化を感じました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

なにより友人や先輩・後輩には夢憧布が行っているボランティアを「楽しいもの」と紹介しています。昼休みの校内放送を利用した募集を行っています。

事務局からの勧誘も大事ですが、メンバーの実体験を交えながら勧誘を続けています。



顔合わせ会の様子

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

自分たちで活動内容を決めるので、なかなか案が出ないことがありました。その時には今まで行ってきた活動を振り返り、「やってみたいこと」からボランティアに結び付けています。

同じ学年同士で話し合うのではなく、他学年と意見を交わすことでアイデアが生まれています。

その他の活動について

**Q. その他に行っている活動
や団体のアピールはありま
すか。**

毎年7月に夢憧布の活動方針を決めたり、メンバー同士の交流を図る顔合わせ会を行っています。自分がやってみたいことをメンバーと共有し、楽しく活動しています。

活動は実施内容により不定期ですが、月に1回、中央公民館で代表者による例会を行っています。現在は中学生のみの活動ですが、高校生への募集を常時行っています。



今後について

**Q. 今後はどのようなことを
目指して、活動を行って
いく予定ですか。**

町内だけの活動だけでなく、様々なイベントに参加したいと考えています。

また、メンバーが楽しみながら地域に貢献できるようなボランティア活動を行っています。様々なボランティア活動を通して、夢憧布全員で大江町を盛り上げていきたいです。



中学生による防犯・交通安全 ボランティア活動

防犯・交通米沢少年隊

… 団体概要 …

代表者

隊長 土屋 裕友夢

所在地

米沢市城北二丁目3番19号

主な活動分野

中学生有志による
地域ボランティア

設立年月

平成12年10月29日

会員数

52人(全員中学生)



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

米沢市内での催事における防犯・交通安全の広報活動や、上杉まつりなどの行事に合わせた清掃活動、雪灯籠まつりで雪灯籠作成など郷土行事への参加を行っています。コロナの影響で上記活動が出来なくなった時も、地元のケーブルテレビに協力を得た防犯動画の制作、印刷会社のデザイナーの指導を受けた防犯ポスターの作成、アナウンサーの指導を受けた車載用防犯広報のCDの制作など実施し、地域住民にPRしました。また、農作業活動をし、その収穫物を利用した防犯広報活動をして、注意喚起を行いました。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何か。

平成12年に発足し、これまで600人以上の先輩方が活躍してきた団体です。当時、全国で少年による凶悪事件が横行したことから、中学生自身が自ら進んで地域のための活動を行うことで、地元を愛し、大事にする心を持つ少年を育てることを目的に組織されました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何か。

毎年12月に「輝きの心伝承式」が行われます。これは、これまで活動してきた中学3年生が引退し、1年生が初めて少年隊の制服を着て入隊するセレモニーで新隊員は、隊の歴史を感じ、地域のために活動しようとする意識が高まります。

隊のスローガンは「笑顔100%、犯罪0%」で、様々な中学校から集まる仲間と交流することで、友情を育みながら、楽しく活動しています。



Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

活動を通して、社会には様々な犯罪があること、自分自身も犯罪に巻き込まれないように気をつけなければならないことを学びました。

活動中、地域の方から「頑張って」と声をかけられることがあり、活動が地域のために役立っているという実感がありました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

コロナ前に行っていた活動は、対面して行う活動であったことから、それまで実施していた活動が全くできなくなりました。

そこで、対面せずとも出来る活動、少人数グループで出来る活動を企画し、それが周知されることで多くの人に少年隊の活動を認知してもらうことができました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

毎年10月に、米沢市内全ての中学校において、1年生を対象に募集が行われます。このとき、学校の先生に勧められる場合がありますが、中学2年、3年生の知り合いの先輩隊員から勧誘を受けることで入隊する隊員もいます。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

SNS 被害防止のための劇や歌を披露しています。また、通学路を歩いて周り、危険箇所を確認する活動など行っています。

さらに、「ひまわりの絆プロジェクト(交通事故で亡くなった4歳の子が育てていたひまわりの種をもらい、植え、育てて、更にそれを地域の方に渡しながらか交通事故防止を呼びかける活動)」も行っています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

隊員同士で今後どんな活動ができるか話し合い、指導員の先生、大学生ボランティア、防犯協会、少年補導員などからご指導を受けながら、中学生ならではのアイデアを活かし、先輩たちに負けないくらい積極的な活動をしていきたいと思ひます。

また、他の地域で活動しているボランティア団体と交流することで、活動がマンネリすることなくバージョンアップできたいと思ひます。

活動の様子





移住者を中心とした コミュニティによる地域活性化 おぐに移住者コミュニティ つむぐ

… 団体概要 …

代表者

代表 舟山 康名

所在地

西置賜郡小国町
大字小国町6-73

主な活動分野

移住者交流・地域活性化・
世代間交流・居場所づく
り仲間づくり等

設立年月

令和2年9月1日

会員数

111人

(令和6年2月現在)



初夏のピクニック



夏の流しそうめん



秋の芋煮会

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

小国町を拠点に活動している地域コミュニティです。交流イベントやマルシェの企画運営、グループ LINE を用いた地域の情報交換などを行っています。

グループ LINE には、お下がりのお譲り情報や町内で行われるイベントの情報など小国町に関する情報を誰でも自由に共有することができます。

現在、メンバーは100名を超え、移住者のみならず、小国町で生まれ育った地域

の大人や高校生、町外の人(関係人口、交流人口)で構成されています。小国町で楽しみたい仲間がゆるやかにつながり、移住者同士はもちろんのこと、移住者と地域の人との繋がりを創出すること、すべての人が安心できる居場所づくりを目指して活動しています。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何かですか。

2020年秋に立ち上げました。設立のきっかけは、移住後の困り感です。近年、小国町は、移住者を増やすための魅力的な取り組みを行っており、全国的にも注目を集めています。

しかし、設立前まではいざ移住してもその後のサポートを行う受け皿がありませんでした。そこで立ち上がったのが本団体です。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何かですか。

持続可能な活動にするために「絶対に参加しないとけない！」などルールを作らずに、“ゆるさ”を大切にしています。例えば、年に1度の参加になったとしても、その人が参加してくれることがありがたいし、会えることが喜びになります。また、子どもたちがつむぐに参加することで、小国町の良さを再発見し、小国町で過ごすことを誇りに思ってくれたら、という思いがあります。

Q. 活動の中からどのような
気づきや発見がありましたか。

様々なバックボーンを持つメンバーと交流を深めることで、小国町の景色がより豊かに色鮮やかに見えるようになりました。

また、多世代で交流するため考え方が広がります。



小国高校生と協働カフェ



川あそび

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのとき
どのように対応しましたか。

人数が多く自由に参加できる活動のため、参加者の温度差があります。活動を始めて1年目のころは、この温度差を特に感じてしまいマイナス思考になることもありました。ですが、この自由に参加できる“ゆるさ”が結果的に持続可能な活動につながったのだと感じています。



つむぐマルシェ

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

メンバーはグループ LINE に加入することで増やしています。

オープンチャットにはしておらず、参加しているメンバーが知り合いを招待し、少しずつ人数が増えていきました。また、小国町に転入された方にはパンフレットをお配りし、活動の紹介をしています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

毎年主催しているSDGsをテーマにした「つむぐマルシェ〜おぐにで楽しむSDGs〜」。

2020年に初めて開催し、昨年3回目を迎えました。SDGsをテーマにしたマルシェは県内初の試みです。県内外から多くの出店者、町内のダンスや吹奏楽団体によるステージ企画など多くの参加者が集まり大変盛り上がるイベントになっています。

今年も6月9日に開催予定です。ぜひお誘いあわせの上、遊びにいらしてください。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

町内にある空き蔵を改装したコミュニティスペース作りチャレンジしています。このコミュニティスペースでは、交流だけでなく、地域の人々の挑戦(例:個展やカフェ、お話を開いてみたいなど)を応援できる、地域人材の活躍の場としても活用していきたいと考えています。

持続可能な活動にしていくためにも、利用料金を設定し、運営費の確保も検討していきます。



医療機関や福祉施設での 花笠踊りの披露及び 伝統芸能の発信

山形県立保健医療大学 花笠サークル 花の会

… 団体概要 …

代表者

サークル長 任田 陽香

所在地

山形市上柳260

主な活動分野

学術、文化、芸術、
スポーツの振興

設立年月

平成10年6月28日

会員数

99人



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

山形市花笠パレード、尾花沢市花笠パレードの参加を主な活動としながら、県内の多くの福祉施設、医療機関における夏祭りや敬老会、花見など、多い年には年間約 30 のイベントで花笠踊りを披露し、参加者に元気や笑顔をお届けするとともに、県内で開催される全国学会やイベントで花笠踊りを披露しています。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何かですか。

当会は、平成 10 年6月に山形県の伝統芸能である花笠踊りを通して、仲間づくり、社会貢献、地域の活性化を目的に活動を開始しました。前身の短期大学の学生を中心に結成し、民族文化サークル四方山会から花笠踊りの指導を受け、伝統的な踊りを継承しつつ、花の会独自のスタイルを築いてきました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

当会は、福祉施設や医療機関でのイベントへ積極的に参加し、花笠踊りという伝統文化を通じた社会貢献と、地域の皆さんとの交流を通し、「笑顔・元気・感動」をお届けすることを大切にして活動しています。



Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

福祉施設や医療機関等で花笠踊りを披露すると、「元気をもらえた」との声をいただき、継続して依頼していただく施設が多く、私たち学生が活動することを楽しんでくれている方がいることを実感しています。また、地域の皆さんの花笠愛、交流を通して山形や花笠踊りの魅力に改めて気づかされました。地域の皆さんからの温かい言葉が私たちの活動の励みになっています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

花の会を卒業したメンバーが花笠パレードに参加するための団体「華」が組織されており、卒業後も花笠や山形とつなぐ役割を担っています。

また、本学の中で最も人数が多いサークルであるため、学年や学科を越えた仲間作りができるほか、学生が主体となり一つのことを成し遂げる達成感や仲間と声を掛け合い成長や絆を感じることができます。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

新型コロナウイルスの感染拡大以降は、練習を思うように行うことができず、また披露する機会が減少したため、頭を悩ませました。しかし、多くの人に踊りを届けて元気になってもらいたいという思いから、動画を作成し、大学のホームページに掲載しました。



Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

当会は新年度に1年生が入学するタイミングで入会の声掛けを行っています。実際に花笠踊りを披露するほか、山形の伝統文化に触れる貴重な場であることをアピールしながら、この活動を続ける仲間を増やしています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

新型コロナウイルスの感染拡大以降は大きな影響を受けましたが、社会情勢の変化に合わせ感染拡大前の活動に近づけられるよう出来ることに取り組み続けています。今後も、山形の伝統芸能である花笠踊りの伝統を大事にしながら、若者の視点での創作を取り入れ、本学独自の花笠を進化させていきたいと考えています。また、特に福祉施設や医療機関でのイベントには積極的に参加し、花笠踊りによって地域の方々に元気や笑顔を届けられるよう、精力的な活動に努めていきます。





花笠の演舞による地域文化の 振興と演舞普及による 次世代への文化継承

山形大学花笠サークル四面楚歌

… 団体概要 …

代表者

会長 石川 舞桜

所在地

山形市小白川町
一丁目4-12

主な活動分野

学術、文化、芸術、
スポーツの振興

設立年月

平成15年

会員数

166人

(令和6年2月現在)



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

私たちは学生が主体となって活動を行っており、県内外の様々なイベントで演舞を披露したり、地域の児童・学生に演舞の指導を行ったりしています。

例年、夏の花笠まつりの時期には、まつりに参加する地域の小学生や高校生に花笠の演舞の指導を行っています。

また今年度は、山形県内各地や青森県・宮城県・福島県・茨城県で踊らせていただいたのに加え、コロナ禍以前ぶりに海外での演舞の機会をいただき、11月にはスペインで演舞を披露してきました。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

サークルが発足したのは2003年で、今年で22年目を迎えます。「民俗文化サークル四方山会」に所属していた山大生が、山形大学で気軽に花笠を踊れる場所はないのかと思ったことから「山形大学花笠サークル四面楚歌」が発足しました。

「四面楚歌」という名前は民俗文化サークル四方山会の河合会長からつけていただいたもので、四方を山に囲まれた「四方山」の状況を「四面楚歌」と表現し、一緒に花笠を踊る仲間としてつけていただきました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

発足当初から「見てくれるお客様を笑顔にし、元気を届けること」を目的として演舞を披露しています。

我々が楽しんで踊ることその輪をお客様にまで広げ、楽しい時間を共有することを目指しています。

また山形の伝統文化である花笠をたくさんの人に知ってもらいたいという思いをもちながら活動させていただいております。



山形花笠まつり



Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

SNS を活用した宣伝に力を入れています。

四面楚歌のホームページ、Instagram、X、Facebook に活動の様子を掲載しており、参加したイベントの報告や練習風景などをご覧いただけます。

また 4 月の新入生勧誘の時期には、大学内で体験会なども行っております。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

1 年間で約 100 件もの演舞の機会をいただき踊りを披露させていただいております。

ご依頼をいただければ、イベントの規模にかかわらず山形県内外どこでも演舞を披露させていただきますので、ホームページや各種 SNS よりご連絡お待ちしております。

Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

演舞後に温かいお言葉をいただくことが多くあったり、ありがたいことに、対応しきれず数件お断りさせていただくほどたくさんのご依頼をいただいている状況であったりと、四面楚歌の踊りを楽しみにして下さる方が多くいらっしゃることを実感しながら日々活動させていただいております。

地域の皆様の支えがあつてこそその活動なのだと思身染み感じました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

人数の多い団体であるため練習時間や活動頻度に差が出ることもあります。

そのような中でも踊りをそろえる点に苦労しましたが、周りの人と揃える意識をもって踊れるようになるまでたくさん練習を重ねました。



今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

昨年 12 月に引き継ぎを行い、21 代目四面楚歌が中心となつての活動が始まりました。今後は 20 年間先輩方が築いてきた「キレイのある、集団美を意識した花笠」を受け継いで、さらに県内外の方へ広めていきたいと考えております。四面楚歌の認知度を向上させることで、花笠や山形の魅力を発信して行ければと思います。また、イベントや祭りで踊ることを通して、お客様に笑顔を届け、皆様とともにたのしい時間を共有していきたいと思つています。



… 団体概要 …

代表者

代表 青木 安茂

所在地

大石田町大字大浦252番地

主な活動分野

地域経済活性化、
観光振興、
地域芸能の振興

設立年月

平成12年11月2日

会員数

20人

大石田まつり「維新祭」 による地域活性化

大石田まつりを 10 倍楽しくする会



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

毎年8月15日に大石田駅前広場を会場に維新祭を開催、運営しています。維新祭では地元大石田や山形県内のほか、宮城県、岩手県、福島県などから20を超える踊りと太鼓の団体が参加し、約450人による迫力と熱気に満ちた「太鼓と踊りの共演」をメインに、主に町内の個人・団体・店舗によるお祭り屋台や、団体・企業等の協力のもと、はたらく車の展示、すいか割り選手権など子どもから大人まで誰でも楽しめるまつりを開催しています。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

大石田町では毎年8月16日の「最上川花火大会」をメインとした「大石田まつり」が行われます。90年の伝統を持つ大石田まつりですが、維新祭を始める以前には16日の日中、子どもたちなどによる花笠踊りの手踊りのパレードが行われていましたが、マンネリ化して盛り上がらないものでした。その状況を打開するため自分たちで新しいまつりを作ろうと町民有志によって2000年(平成12年)秋に結成、翌年から最上川花火大会の前夜祭として維新祭を開催しています。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

まつりで地域を盛り上げるため、“つねに新しく”をモットーに、毎年新しいイベント、新しい出演団体、新しい演出のため、年間を通して活動しています。

Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

維新祭の運営費の大半は町民や町内企業からの協賛金によるもので、地域に支えられながら開催しています。

まつりの運営にあたって多くの方のサポートをいただいております。活動に対する期待もとても大きいと感じております。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

2020年には維新祭は節目の20回目として開催する予定でしたがコロナ禍により中止となりました。翌年2021年と2022年も、大石田まつりは3年連続の中止となってしまう町からの補助金も無いなかでしたが、維新祭はなんとしても開催しようと、町民の皆さんなどからの協賛金で、会場を町民交流センターのホールに移して開催を続けました。



Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

メンバーの声がけのほか、中高生を対象にボランティアを募集しています。維新祭当日の活動への参加をきっかけに企画・運営に携わっていただくケースもあります。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

下部組織の踊り団体「大石田維新組」(創作花笠踊り)や「最上川芭蕉連」(阿波踊り)は積極的に町外・県外のイベントに参加しています。そのつながりから、他地域の団体に維新祭に出演いただくケースも数多くあります。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

まつりの活気を地域の活気につなげられるよう、様々なことに挑戦しながらまつりを続けていきたいと考えています。





自動車の廃材を活用した バリアフリービーチの構築と創出

一般社団法人 ドリームやまがた
里山プロジェクト

… 団体概要 …

代表者

代表理事 小谷 卓

所在地

山形市十日町3-9-36

主な活動分野

環境保全、自然保護、
地域づくり、地域貢献、山
形の文化継承

設立年月

平成27年11月30日

会員数

17人

(令和6年2月現在)



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

海、海水浴場を拠点として、健常者と障がい者が一緒にマリンスポーツや海・浜辺で楽しむイベント開催等の活動を通じて、共生社会の構築のきっかけ作りに貢献することを目的にバリアフリービーチ事業を実施しています。

Q. いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何か。

イベントは2020年から実施しており、きっかけは2019年、鶴岡市鼠ヶ関で開催された鶴岡市内にある医療法人主催のバリアフリービーチ大作戦に団体として参画したことです。

2016年から日本財団の助成事業で海との関わりある事業を行っており、バリアフリービーチ事業の助成を2020年度事業として申請したのがスタートです。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何か。

障がいを持つ人たち・そのご家族の皆様との接し方は「極力自然に、特別扱いしない」をモットーに、但し「安全第一に、楽しさを共有する」を大切に活動しています。



Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

バリアフリービーチ事業を展開する中で、その地域の官民他の皆様の理解・協力いただき事業目的を共有しており協働の輪の広がりを感じています。

特に、これまでは海岸線を持つ庄内エリアの自治体との連携が主でしたが、山形市、寒河江市、山辺等の内陸部での連携・協力を得、また2023年度より事業を県外にも広げ、新潟県村上市でもバリアフリービーチ事業を実施しました。



Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

どんな障がいを持つ方なのか？障がいを持つ人の家族環境、そしてご両親が障がい者ですが、お子さん達は健常者という家族構成等々、多種多様な事情を抱えております。その人、その家族等様々であり、それぞれの目線に立ち、状況を把握し、企画・実施内容は個別に寄り添い実施する必要があるのでは、と思いました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

健常者はともかく、障がい者の皆さんをイベントへ勧誘する場合、障がい者個人は良いのですが、施設入居、利用障がい者は、職員さんの日程や施設の稼働日調整等が不可欠で、難しい面もあります。

また、県外の海水浴場ですが、バリアフリービーチイベント開催申請してもシーズンを除き設定してほしい、という規制もあり理解の足りなさを実感しました(2023年度)。上記案件、打開策は検討中。



その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

海岸清掃を地域自治会や小学校と協働し、海水浴シーズン前に実施しています。

また、近年多発している水難事故防止のため、川や海遊びの際の安全を啓発する事業もライフセーバーと協働し行っています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

当団体の活動を通して、地域の活性化や子育て支援につながる事業も実施したいと思えます。



ゴムボートを活用した ダム観光の推進と交流人口の拡大 (絶景・三淵渓谷通り抜け参拝)

特定非営利活動法人

最上川リバーツーリズムネットワーク

… 団体概要 …

代表者

代表理事 佐藤 五郎

所在地

長井市平山2743-4

野川まなび館 内

主な活動分野

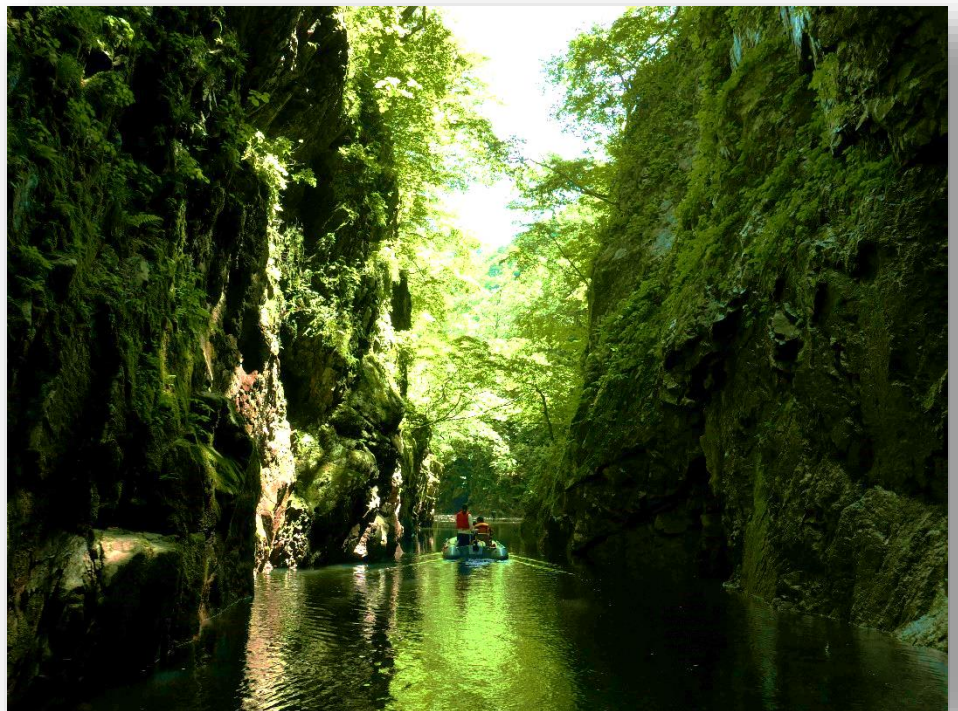
観光の振興

設立年月

平成16年4月

会員数

9人



受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

国直轄ダムの長井ダムには、ダム湖(ながい百秋湖)の最も上流に龍神様(水神)を祀る三淵渓谷があります。その渓谷は極めて硬い岩体からなり川幅 3~5mの兩岸に高さ 50mに達する断崖絶壁が 250mも続いています。ボートでしか見られない神秘的な絶景を堪能するツアーを開発しました。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

長井ダムは 2011 年に竣工した東北有数のダムです。周囲の谷は深く優れた景観を有していることからダム湖を活用した地域活性化を図るために始めました。国土交通省にダム湖での船の運航願いを重ね、翌年 2012 年に新潟県からチャーターした屋形船を運航しました。しかし渓谷の地形から屋形船では入ることができず、2014 年からレスキュー用ゴムボート運航に切り替えて 10 年になり、その間のボート乗船者数は 20,000 名に達します。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

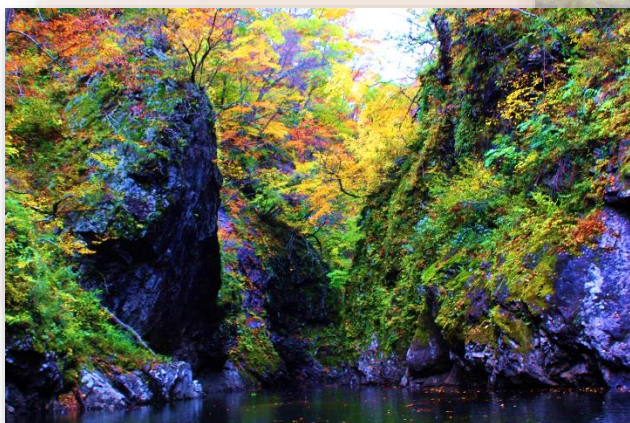
ボートに乗られた方全員にアンケートの記載をお願いしています。ほとんどの方が大自然の絶景と神秘さに満足しリピーターも多くおります。

このような状況で県内のお客様さんは三淵渓谷を山形の宝と称し、とくに地元の方は長井を誇りに感じるとまで思うようになりました。地域活性化は郷土に誇りを持つことが最も大切なことだと思っています。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

安全最優先につきます。とくに2022年の北海道知床遊覧船の事故を受け法律改正があり、一層のコンプライアンス強化に努めています。運輸局に航路設定と安全規定等を届け、さらに使用ボートは船舶検査を受けて運航しています。

また、航路の安全確保はもちろん、携帯電話の繋がらないエリアになっているので各ボートと乗場さらに基地の野川まなび館は無線で繋がるようにしています。さらに幼児から高齢者までの幅広い年齢層のお客さんが全国各地および海外からも来られるのでボートの快適性を重視しています。すなわちボートの座席はクッション性の良い背もたれ椅子にし、ガイドスピーカーから案内説明が流れます。お客さんの旅行行程に迷惑をかけないように航路の所要時間1時間(60分)を厳守しています。



Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

ボートを出せる場所は一ヶ所しかなく、三淵溪谷の人気とともにサップやカヌーを持ち込んで楽しむ人が急増しています。

狭い駐車場のうえに少しでも水辺に近い場所を利用するため、混雑します。そこで、当法人のスタッフが交通整理を行い、湖面の状況や航路の気象状況を説明するようにしています。

また、水位や気象災害などで長期間運休になる場合は機材メンテナンスを徹底し事故防止に努め、安心して利用していただいております。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

希望者はいますが、人命にかかわる事業なので人件費を予算化して進める必要があります。

現在は陸上作業スタッフの一部はパート職員で補充しています。事業として収入の増加を図ります。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

最上川堤防沿いの桜をボートに乗って観賞する事業を無料で実施しています(運輸局に航路設定および運航届出)。

長井の水や景観に関心を持ってもらうためフォトコンテスト実施して11年目になります。

またボートでの収入を基盤に地域活性化に繋がるイベントを様々実施しています。



今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

全国や海外からのお客さんが増加しているので、地域の関係業種と連携しながら観光地に相応しい町に変革していきたいと思っております。

また、最上川本流においても上流部における川下りとして確立したいです。

2023輝く県民活躍大賞 受賞活動(団体)の紹介

令和6年3月28日 発行

<ジュニア・ユース部門、一般社会貢献部門>

山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課

県民活動・防災ボランティア支援室

<若者部門>

山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課